

宮之城町の半世紀を振り返る

本町が誕生して50年の間に、様々な施策や出来事を経て成長・発展を続けたあゆみを紹介いたします。今回は、平成7年～平成16年までの主な出来事を振り返ります。

◇平成7年2月

宮之城ひまわり館が完成

心の通う福祉のまちづくりを推進するための総合的な福祉活動の拠点施設「宮之城ひまわり館」が鉄道記念館裏の営林署貯木場跡地に総事業費約7億5千万円かけて完成した。

ひまわり館は、在宅福祉の中心的役割を担う社会福祉協議会、シルバー人材センター、ホームヘルパー、福祉給食などの活動施設として大いに期待された。



福祉活動の拠点「宮之城ひまわり館」

◇平成7年8月

子ども議会が開催

21世紀に活躍する児童・生徒の自由な発想に基づくまちづくりへの提言や夢を広く求め、子どもたちの町づくりへの関心を高める目的で「宮之城町子ども議会」が開催された。

子どもたちの視点から学校問題やごみ問題などの鋭い問題指摘がなされ、町長や教育長の答弁を求めた。

◇平成8年4月

農業集落排水施設が一部供用開始

時吉地区に農業集落排水施設「ふるさと農村クリーンセンター」が完成し、平成8年4月から一部供用開始された。

今まで、汚水が各家庭から用排水路などへ直接流されていたが、処理施設が供用開始されたことにより、浄化された水を用排水路などへ流せるようになり、農業生産の向上や地域生活環境の保全が図られた。

◇平成8年5月

きらら公園が完成

県単独農業農村整備事業（美しい景観づくり推進型）により建設が進められてきた「きらら公園」が完成した。

公園には、茅葺き屋根の水車小屋、遊歩道が整備され、園内を流れる小川には泊野川から清流を取り込み、子どもたちの格好の水遊び場となっている。

◇平成8年12月

住宅団地「ホープタウン」が完成

定住対策の大きな目玉として、市街地近くに良質で低価格の住宅団地「ホープタウン」が完成し、分譲が開始された。

◇平成9年3月・5月

鹿児島県北西部地震

平成9年3月26日と5月13日に宮之城町を震度5の大地震が襲い、住宅の損壊や道路損壊・亀裂など大きな被害をうけた。

湯田地区ではほとんどの民家の屋根瓦がめくれたり破損・落下した。また、水道管の破裂による断水状態が続いたため、自衛隊給水車が2か所で常駐した。

泊野地区の避難所では、地区消防

◇平成9年11月

さつま東部クリーンセンターが稼働

宮之城・鶴田・薩摩・祁答院・入来の5町で組織する薩摩郡東部衛生処理組合で建設したごみ焼却・粗大ごみ処理施設「さつま東部クリーンセンター」が稼働を始めた。

50メートルの煙突を持つこの施設は、焼却能力1日40トンを有し、ダイオキシンなどの発生を抑える公害対策がとられた。



大きな被害をうけた宮之城高校

団員と役場職員が交代で待機し、24時間体制で警戒にあたった。また、炊き出しも婦人会を中心に毎日行われ、愛情がこもったおにぎりなど避難生活に潤いを与えた。

町内の3つの小学校と2つ高校も大きな被害をうけ、仮設校舎での授業を余儀なくされた。